

科目名	現代政治理解		
教員名	未定		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2019 年度 前期
到達目標	1 選挙権年齢に達している市民として、政治を理解し、政治に向き合う姿勢が育成されます。 2 身近なテーマを取り上げることで、政治に対する意識を高めることができます。 3 政治に関する基本を学ぶことで、教員採用はもとより、民間企業や公務員として就職する際に大変役立つ知識が身に付きます。 4 新聞の活用を通じ、同じ事象に対する主張が新聞社によって異なることについて考察することで、思考力・判断力・表現力を高めることができます。		
授業概要	1 時事問題を取り上げることで、政治を身近なものとして捉え、政治に対する意識を高めていく。 2 日本だけでなく、世界の主要国の政治形態についても考察する。 3 新聞等を活用し、新聞社によって報道の視点や見方が異なることに注目し、その違いについて考察して発表や討論を行う。 4 時事問題について、見解の異なる立場からディベートを行い、考察を深める。 5 政治を学ぶことで、社会参加の姿勢や意欲を育んでいく。		
授業計画	第 01 回 オリエンテーション 第 02 回 日本の政治史（明治期以降） 第 03 回 日本の政治機構（立法） 1／時事問題研究 1 第 04 回 日本の政治機構（立法） 2／時事問題研究 2 第 05 回 日本の政治機構（行政） 1／時事問題研究 3 第 06 回 日本の政治機構（行政） 2／時事問題研究 4 第 07 回 日本の政治機構（司法） 1／時事問題研究 5 第 08 回 日本の政治機構（司法） 2／時事問題研究 6 第 09 回 選挙、投票、政治参加 1／時事問題研究 7 第 10 回 選挙、投票、政治参加 2／時事問題研究 8 第 11 回 政党制度 1／時事問題研究 9 第 12 回 政党制度 2／時事問題研究 10 第 13 回 比較政治論／時事問題研究発表準備 第 14 回 時事問題研究発表 1 第 15 回 時事問題研究発表 2 期末試験		
授業方法	講義、調査、ディベート、発表・討議などにより行う。		
アクティブ ラーニング の観点	プレゼンテーション、共同学習（ペアワーク、グループワーク）、ディベートの実施など		
授業外学習	1 日頃から新聞やニュース等により政治の動向に关心を持ち、種々の政治的課題について自らの考えをまとめるようにすること。 2 時事問題研究発表に向けた準備をすること。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する。 事前に紹介した資料については、予習は必須である。 なお、読売、朝日、産経、毎日の各新聞のうち、少なくとも 1 紙は購読することが望ましい。 （ネット配信でも可）		
評価方法	授業への参加度（積極性やレポート）50%、期末試験 50% 授業への参加度については、特に積極性を重視する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校で公民科（主に政治経済と現代社会）を教えてきた経験を有する教員が、新聞等を活用して学生の興味関心を喚起しながら、現代政治について分かりやすく解説する。		